

浦里
時次郎

明烏後正夢

初編

上

^ 13
2909
4



門へ 13
號 2909
卷 4

序

稗史小説之為著述也。各搜索

新奇。走思於時好。以綴戲譎。

誕。終實其事矣。於是南仙笑主人

亦綴書一篇。既晚稿示於余。余

披而閱之。乃卷中不戴彼新奇

昭和九年
一月二十一日
晴

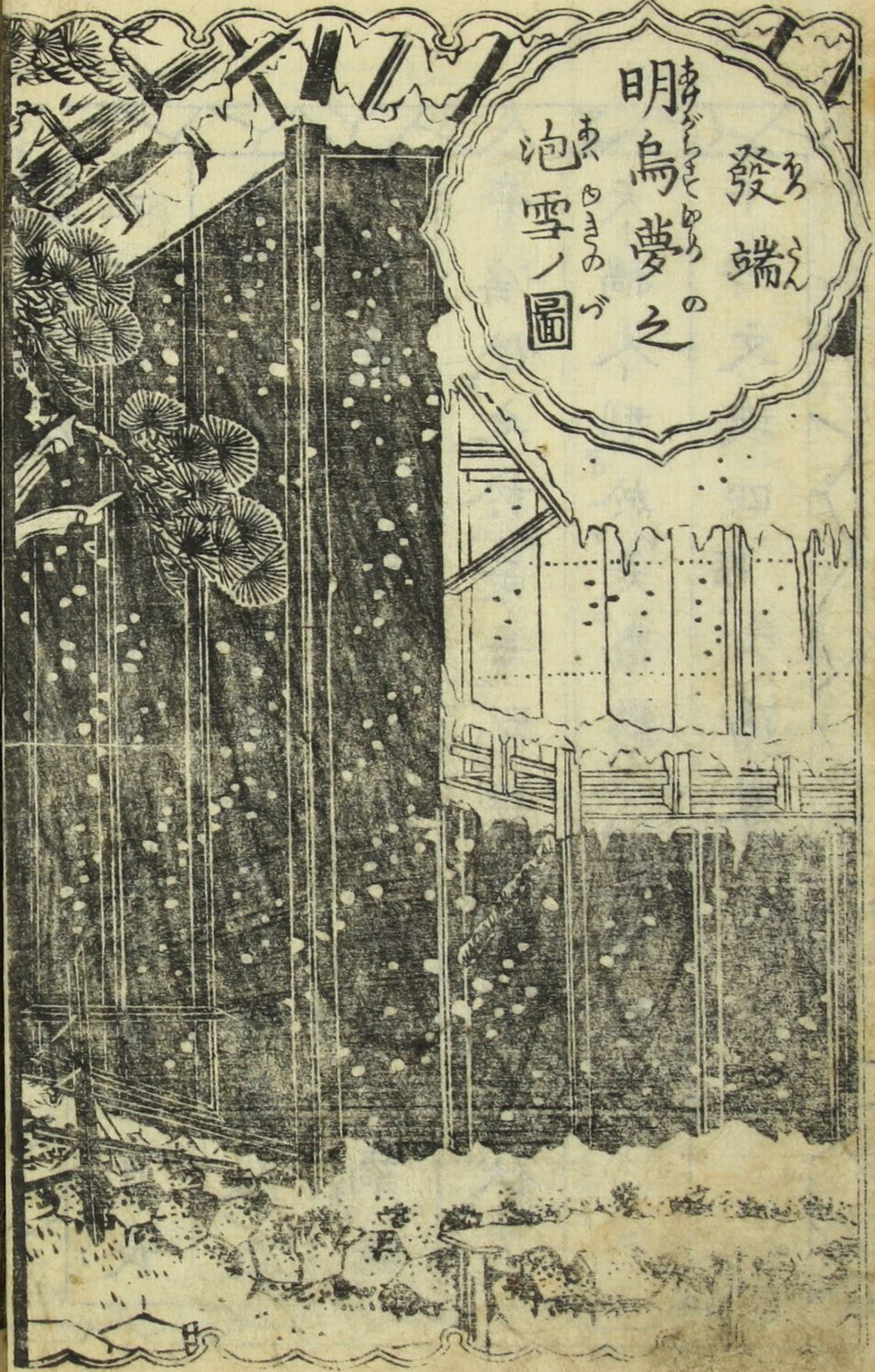
妄誕而盡人情世態也。其可愛
可惡喜怒哀樂壹是皆以下天之
福善禍惡勸孝悌義烈懲驕奢
淫佚矣。雖然天道是歟非歟。有
孝悌義烈而艱苦其身。驕奢淫
佚而榮花其事者。於其勸懲如

之何。嗚呼。不知陰陽消長歟。陽德日長
陰惡日消者。天之道也。故孝悌義烈之
於艱苦。先戒慎之。終全其眉壽。萬福。驕
奢淫佚之於榮華。既僥倖罔之。卒伏其
天禍。人刑。於是勸懲可觀而已。

千時文政四辛巳陽春



白
三
木
七
武
友



發端
明烏夢之
泡雪ノ圖

寛政文化の御代小源行南仙笑楚満人が著たる草
 紙として存の中、復雙言の物語を前後の集よりの七
 巻を此まで初會とすたる。三組五乃因書うけ、世
 ぶとして終へし、十有余年の昔と有りて、柏木は枝の
 露と消は特儒の急も齊の極に携ふるは本意をなす。
 王質ある其以後に狂訓亭為承成二世南仙笑
 楚満人と呼ぶとまりと改め、我作ふるは花乃屋
 小舟大將只一夜、瓦燈のそと、ふはく種と。明鳥後乃

正夢と題して鶴賀若枝が正本に原稿滑枕あり
 新内乃下節、獨吟の素結子。世話狂言は序園とせ
 よし。友人のそとあり、鶴トて此幕の口上、後のつらみ、終

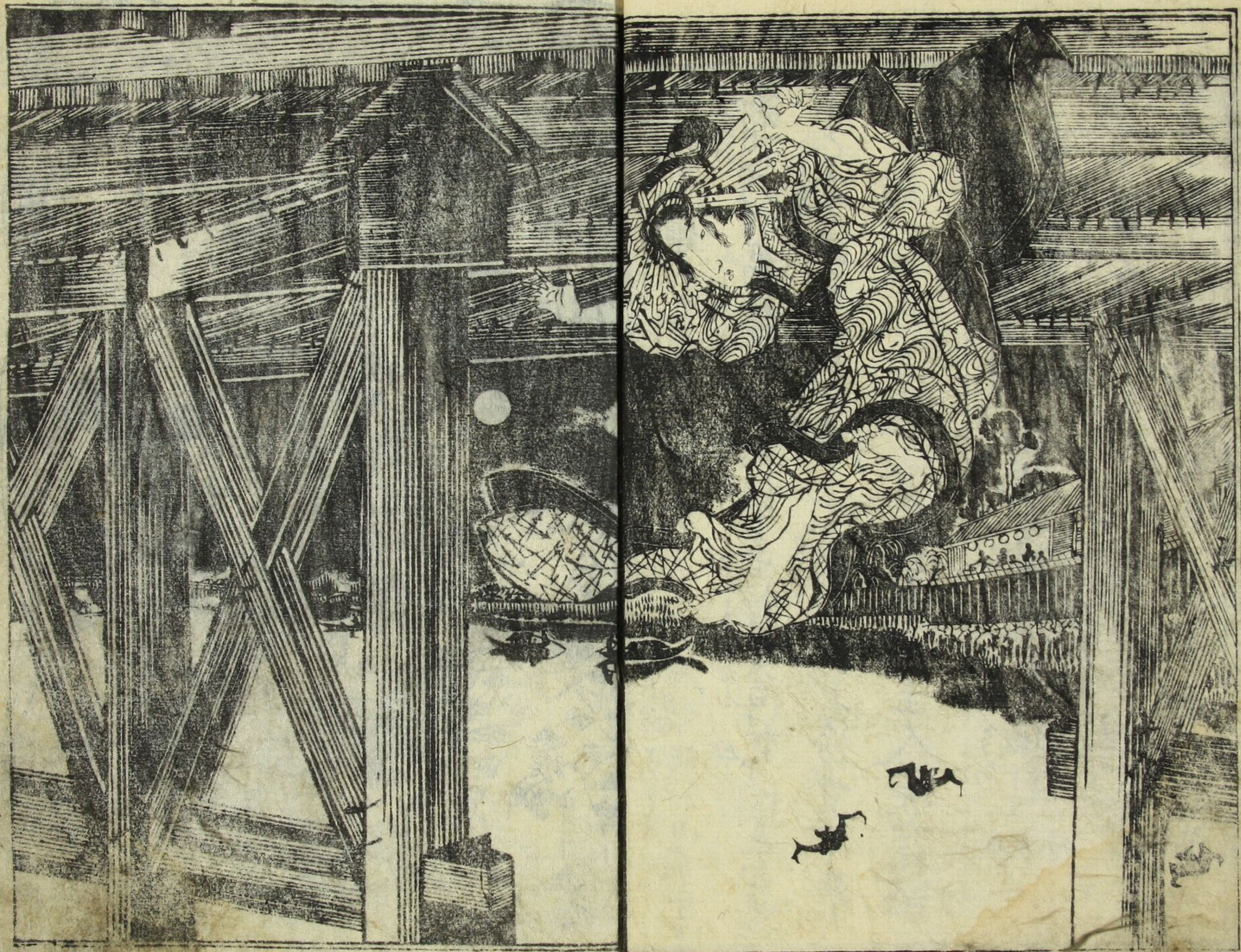
琴通舎主人英賀誌

尾上おれ、濱越園の山園 伊太公、きり、滑川の川開

哥祭文、藝子草履打

冊五全

右近日 瀧亭主人鯉文著
 巖市 歌川國直画



あしひたし



松ののりまき
しるす阿あられ

松ののりまき

春日屋時次郎
事於照



ちむけ ちむけ
千葉家の中老女
梅谷

桂友
八橋合

まのり
まのり
まのり

荒川湖左衛門

世小流行新内節と其候のちにて祭場ふ世話場の幕成
 時次即ち屋敷家八情の糸に綾瀬川流にみたりと
 幼名を呼ば堤の三谷舟のつて廓の傾城請出
 める表向も其浦里が慈敷八葉の泡無解初
 きの於照が貞女神お誓書掛守八千兼家乃重寶菅家の一輪利蓋を
 祈る心根にお里も同く木下川薬師百度参り
 額小袖昔藤子に纏く互の形身と移る香も
 その御殿場おせんとの御側ありと茶の間おも
 居と海溜瀆新因と取合る物居のんかばうの片言も拾く
 御評判品由身負の一声が雀賀豊名賀富士松ぶ
 國大まうびの縁ふけのまて此繪草紙と纏くめ
 文政四年辛巳の春



夫 太

鶴賀新内
 鶴賀若杖掾
 鶴賀鶴吉

調口

作者瀧亭鯉夫
 海書道
 彫工加藤利八
 画人歌川國直

あけうらまのちのまさとやめ

春日屋時次郎
 山名屋浦里

明烏後正曲文

改字 上

よみか

製本所

越前屋長次郎板

江戶豊島町壹丁目

あひかりき一

青林堂藏

明烏後正夢壹れ巻

第一回

榮枯盛衰有為轉變きのみれ花へけの夢と世乃
さうこせいのうねてんげん
 諺もむざるや。彼時次郎浦里へ風とあまそや。其日あま一
あまときらうらふと
 夜二夜の枕れちやもの。せりて高き雲の山今たがひぬ
よきよま
 けあ。つらきと思ひ出てあり心をがくふ死ぬれ旅とかくみふ
あひつせ
 かくむ極くも。赤みどりぐつとて虫があらまら東の間も
あひつせ
 ともれハからごとおろくと。ちやう心のいざららさ。

二夕人る死身とならふらば。誰をたよりて生長し。
ふたり
 いらる夏目小逢のやせんと。心ひ廻せばいとくをみん。
なつめ
 捨小行身のうしろ髪ひくひえも早瀬川心るぬ
すて
 どおしきぬ。ニッれ命捨兼て。花形村の知るべを
あひつせ
 たより。葉小前の明家をかり。志をたらく思ひわたり
あひつせ
 が。天高地厚も身をかぎりほくも踏ぬ日伝の身
あひつせ
 曇りがらる。春の夜乃。月をかきとむと思ふ内いけり
あひつせ

青林堂藏

重^{おも}と眼^めの病^{やまひ}なごははられ落^{おち}人のたごも中^{なかつ}もあぶれ
遠^{とほ}近^{ぢか}おむむ茶^{ちや}の料^{りやう}捨^す方^{かた}の死^し折^{せり}もさう。おぢんらん
といさして。むろつと入^い来^くる大^{おほ}男^{おとこ}。古^{ふる}き小^こ夜^よ着^ぎ小^こ子^こ
拭^{ぬぐ}の角^{かど}とさみと一^{ひと}重^{おも}帯^{おび}。お里^{さと}ふびりさうさうさあ
顔^{かほ}。そあまのハごころごごん。こと。こごごご。いりバ彼^あ
男^{おとこ}つごごの愛^{あい}のと定^{さだ}めもね。さうやア鯨^{きんぎょ}の泥^{どろ}流^{なが}とそ。
青^{あお}天^{てん}井^{せい}ハ皆^{みな}居^い所^{ところ}。さうやア置^おてアノむきとこさん。ハヤ
あつちの且^{かつ}那^なハ内^{うち}小^こ久^く圍^いアイ此^{こゝ}節^{せつ}ハ眼^めが悪^{わる}うて

寝^ねて居^いらまを圃^ほハアそりやアこまうこのめ。目^めの
煩^{わづら}あら此^{こゝ}村^{むら}の可^よ菴^{あん}小^こかろりあせん。片^{かた}く悪^{わる}くハ両^{りやう}
方^{かた}へら。両^{りやう}方^{かた}コろくハ大^{おほ}大^{おほ}夫^{おとこ}目^めくらふさるハ精^{せい}合^{あひ}
と。問^とこごごがさうのゆくと口^{くち}。むろさう居^いり大^{おほ}あごら。
時^{とき}小^こ姉^{あね}さん。さうやアちのとむさん小^こ来^き中^{なかつ}ハ圃^ほ
アムむしんとささりや何^{なに}をア圃^ほ。如^{ごと}女^{にょ}もかくて
何^{なに}をさ見^みる返^{かへ}りの此^{こゝ}泥^{どろ}藏^{ざう}。色^{いろ}茶^{ちや}の有^ある。答^{こた}も
た。むしんとささりこの夏^{なつ}。右^{みぎ}を合^あと四^よ本^{ほん}

あまのつた

三

青木堂藏版

の脂。飯いびりふこをせる物かまねハゆぐむ心とあられ
きり。関まておまる胸む裏う手て云いこしせん中も毒乃ね根ねと
あらまじで。こらいくあらひ居るをこらて泥是あのいさん
何なもこらいの夏ハおたる金な度く。イヤああへこらと
こららあへド上且形小遠ふくとまらと納戸へ押あらり
二枚戻風を引のけて。ヲイ且形糸てり起てり知らず
おらが。振子ハア子小いあるり。此ま去つびいてりあらるも
仕合こらく。こららあるのけさぬ。物知るハ皆あらるり。
いままままま

金の神ももんたまされ。移先る鬼門除があらる
ひららびの飄車らあらひはいらが業徒神明キの
方と見いらる頼も長くとあらり中をあら人仕合のあらる
まで。捨兩斗かり小米中に時それハまの毒はらひ
あらら。金の心とか眼積遠ひらの身あらる危と
角も今ら見入まくは米石今日ハ湯を言てこら。
あまの烟のたらもあらまじで又おらる眼の烟ひ
今も茶原のつららふをおら治らがら底に

おはせしむ

三浦村

ひの程^{あんな}。是^{これ}ふ^ふど^どと^と良^よの^の事^{こと}。其^{その}味^{あじ}の^の外^{ほか}は
 て^てふ^ふだ^だと^とハ^ハる^る一^一と^と受^うけ^け斗^とう^うで^で金^{かね}の^の茶^{ちや}を^を求^{もと}む
 手^て候^{こう}も^もま^まく^く泥^{どろ}ア^アコ^コノ^ノイ^イヤ^ヤモ^モカ^カラ^ラズ^ズと^と弱^{じやく}い^いが^がを^を求^{もと}む
 口^{くち}ハ^ハい^いあ^あの^の病^{びやう}を^を治^{ちやう}す^すに^に中^{ちゆう}々^々に^にお^お人^{ひと}お^おれ^れが^がい^いの^のと
 金^{かね}の^の度^ど。戸^とを^をあ^あけ^けて^て下^{くだ}ん^んを^を時^{とき}イ^イヤ^ヤサ^サ今^{いま}云^いふ^ふに^に互^{たがひ}つ^つの
 ち^ちの^の茶^{ちや}の^の味^{あじ}の^の違^{ちがひ}々^々と^とさ^さら^らつ^つあ^あり^りの^のけ^け身^みの^の人^{ひと}々^々相^{あひあひ}
 づ^づら^らと^と相^{あひあひ}づ^づら^ら泥^{どろ}出^で来^きぬ^ぬと^とい^いふ^ふの^のう^う時^{とき}イ^イヤ^ヤサ^サ不^ふ用^{よう}立^た
 ゆ^ゆら^らも^もあ^あり^り泥^{どろ}ア^アサ^サら^らぬ^ぬ一^一の^のう^うも^もあ^あり^りも^も難^{なん}し^しも^もあ^あり^り

水^{みづ}を^をあ^あけ^けて^てあ^あの^の大^{だい}船^{せん}の^の船^{せん}は^は海^{うみ}の^の波^{なみ}を^をか^かき^き出^です
 の^のと^とけ^けま^まさ^さら^らと^とあ^あり^りて^て病^{びやう}ア^アら^らま^まる^る物^{もの}々^々は^は難^{なん}し^し
 から^{から}盗^{ぬす}む^むの^のと^と目^めくら^{くら}い^いに^にせ^せても^も知^しれ^れぬ^ぬ事^{こと}。あ^あの^の人^{ひと}々^々
 とも^{とも}あ^あら^らば^ばは^はら^らゆ^ゆと^とあ^あら^らぬ^ぬ人^{ひと}々^々の^の大^{だい}船^{せん}に^に
 て^てか^かん^んと^とあ^あら^らぬ^ぬ事^{こと}。あ^あの^の人^{ひと}々^々は^は海^{うみ}の^の波^{なみ}を^をか^かき^き出^です
 の^の人^{ひと}の^のと^とあ^あら^らぬ^ぬ事^{こと}。あ^あの^の人^{ひと}々^々は^は海^{うみ}の^の波^{なみ}を^をか^かき^き出^です
 事^{こと}。あ^あの^の人^{ひと}々^々は^は海^{うみ}の^の波^{なみ}を^をか^かき^き出^です
 事^{こと}。あ^あの^の人^{ひと}々^々は^は海^{うみ}の^の波^{なみ}を^をか^かき^き出^です

出—あれと大夜つとてはやくとぞ世間をなさん
 ちるの。つらま度をりまほひぞ。罧をせむけるる
 青二つめ。あらが仲間ハ曲廓の地也。そなたの
 まねて務の目毎の目は如くおとぐ繩張外
 から一ト網おされてははね花が流らるぞ。うぬ
 らまきねのまがのつら。出くも人出くつひいけ
 志る。声は女ハかりてねとを法むじんふ引たりま

是戸まるくト透入らぬ。時次糸たぬの意さ
 ぐらんとは泥るう様を取て引返せばなもあく
 そく佛極ぐ。我が女小母との誓のまおられ
 かくるそそ非るあれ。泥る大夜つとチイめくゆく
 ちるの。アからぞがまねうごられぬぞ。ちり
 るから神をたがれ。大官の女サア突出せ。そくも
 叶くぬけうら。ものことぶてサアせ。あやうら
 心をとらたそをぬくも申り。流るあけらるるも

山田とて
 山田とて
 山田とて
 山田とて

あつてひのこさうと。年あけの卒次とてお申右
うこの斎お召の出合がらふ火入の位まで。月々
ころごて戻まぶれ。卒次アイタミ。コレマアあんときん。
あつての月お合せある。ア戻の火入鼻が遠入さう。
ハクコサ。コレ何でお召成あつての。ハクシヨ。團ヨ。よの火入
卒次さん。アしあの人づけさう。さありとして
さんせ下。あつて卒次を影をなで。団をさうお召
卒ヤレお軍とみら。あつてせん切おあさくさう。

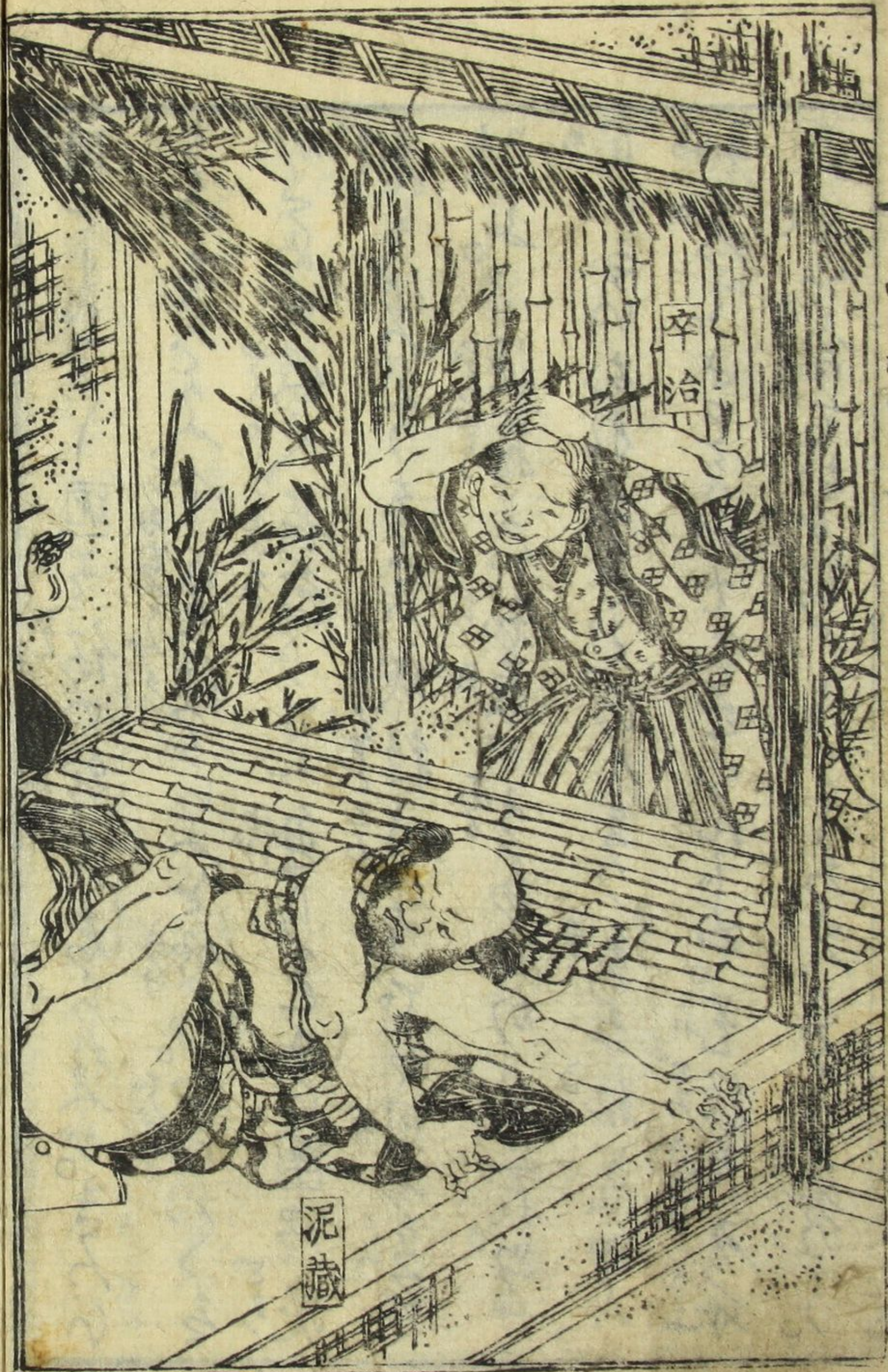
アまきご月が明ぬ。コレさうぞハクシヨ。おん。おん。おん。
あつてさうとあつてさんせ下。たな指申すまふの火
ひらげ。お軍が影へ火付ケるがら。ハクシヨ。團ヨ。まきご
あつての影を影とあつてハクシヨ。アヤつてさうあつて戻
あつて。コレ月のおちがら。あつてさうぞ。あつてさうぞ
あつてさんせと。あつてあつて。お軍を影へあつて。さう
さうご月のさうと。卒次さう。月お召さう。あつてさう。
あつてさうぞ。ハクシヨ。アヤまきご。お軍があつてさう。
あつてさうぞ。

髪のちらちらもぎわね人ぶさね^ウ〜^ニ 率々^ウと何ん
 ね〜。ざねうら〜。ざねうら〜。おれさん今當りて
 ね〜。おれさん今當りておれさん今當りて
 火入のまぐ。ヒリック〜ツキ〜。いひひの。我身はあつて
 人のいひ。さういふゆゑ。あつて。おれさん今當りて
 [泥] モシ率々さん。おれさん今當りて。おれさん今當りて
 仕ぬらひ。おれさん今當りて。おれさん今當りて
 ぶ〜。おれさん今當りて。おれさん今當りて。おれさん今當りて

首筋。是ら。率々さん。おれさん今當りて。おれさん今當りて
 ね人。おれさん今當りて。おれさん今當りて。おれさん今當りて
 あか。おれさん今當りて。おれさん今當りて。おれさん今當りて
 ろと。おれさん今當りて。おれさん今當りて。おれさん今當りて
 目。おれさん今當りて。おれさん今當りて。おれさん今當りて
 ん。おれさん今當りて。おれさん今當りて。おれさん今當りて
 を。おれさん今當りて。おれさん今當りて。おれさん今當りて
 め。おれさん今當りて。おれさん今當りて。おれさん今當りて

早うござりませ〜とい、捨りて死を爲す。泥を
掬ふ。例の卒次ハびりりりぎぎうん。卒次
小舟のあせんぎ。あざらぬて初。是のあひを。
さやあがら。浪子と地改ありのままで。卒
ぶりく。矢柄海を扱せぬ。其まん。ぶりがあひ。
野とるれ。少島人。あざらぬて。卒次
と。浪がらふ。久い。泥を扱。卒次
や。登る。は。づ。と。其。下。づ。つ。あり。屍。際。

目とまがりく。一。何の終えあらぬが。まんの
うろたへん。今。其。候。が。り。と。あ。は。出。く。
か。あ。の。役。人。其。飛。り。で。ハ。外。ら。ま。の。卒。一。泥
飛。び。り。り。あ。ら。成。程。は。あり。で。ち。目。あ。を。
み。子。コ。泥。飛。ら。知。息。が。あ。ら。か。そ。れ。お。け
目。の。あ。い。お。ね。あ。ま。ど。あ。ん。ま。り。あ。る。難。義。ゆ。人。
知。息。も。ま。ま。う。よ。と。と。さ。ん。ど。や。是。泥。飛。ら。候。
コレ。を。合。せ。お。が。む。く。と。う。ろ。た。へ。ん。と。あ。ら。は。り。



流るる人よりやこころか。うら。そらでかめ人がたまに
 ありて。草吹きんまらるるまじく。とありけるふや
 をしこみぐるのまじ。うら。おまは又流るるまらるる
 が。いそよこのぬ人より入遠たくらゆるまらるるまじ
 う。そらくらふかめ人の務る。み人でも。川人でも。まら
 るる人遠入るるま人と。我が身を思ふ程がまらるる
 流るる先ふたそ。竹たむ。ポイントまらるるまらるるまらるる
 せらるるまらるるまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる

第貳回

あらゆる物よりハ顔かん合はるること見せ流るるまらるる
 思ひぬせふ己う身と。流るる流るるまらるるまらるる
 義とゆふた身の上うら。心不掛るまらるるまらるるまらるる
 げーくまらるるまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる
 目紙をまらるるまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる
 思ひ知るまらるるまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる
 思ひ知るまらるるまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる

死しすす一一もも親おやのの身みをを氣きををととああららががららもも些ち張ぢやうヤヤバ
 かかららぬぬ死しららるるせせががままぐぐのの書かきししてて又またたたのの一一み
 何なんれれのの中ちゆうにに其その時ときををつつかかつつ門かど出で入い方かたををののととく
 たたけけかかららなないい。ああららせんせんののととくくををふふららねねぬぬ身みをを
 どの中ちゆうかかくくごごののととくくのの海うみををりり。ああららががららももああららぬぬ
 ののととくくとと連つれててののとと其その時ときハハ死しぬぬととかかくくをを扱さくははがが
 重おもききああららぬぬ少すこ少すこののああののおお松まつ。禿かぶととくくああららぬぬ。そ
 るるとと義ぎ理りああるる婦あひのの娘むすめ。捨すててて死しぬぬ中ちゆうにに死しぬぬ。

みみままんん中ちゆう令れいををららんんてて。せせううななままのの一一ののととくくにに任にんねね
 思おもひひくくととああららぬぬとと天あま知しるる地ぢをを流ながれれががゆゆききりり
 掛かけけりりもも女おんなのの不ふ肖せう。今いま日ひををわわららくくののううれれててもも
 一いつ天あま虐あやふふるるけけばば万まん女おんな実じつをを傳つたへへらら。早はやにに
 陰かげのの家かにに終おわりむむ。今いま中ちゆうににああららぬぬ曲まがのの邊へにに取とりり
 かかととああららぬぬととくくののととくく。かかららぬぬととくくのの目めのの
 痛いたみみもも中ちゆうににああららぬぬ親おやののななままらら。アアモモクク。陰かげににああららぬぬ
 ああららぬぬととくく。ああららぬぬととくくのの面おもてをを。ああららぬぬととくく。

らんまばいしづね。お里ハ涙を眼よりらめ。里はらんお
おまう人ハこそししゆ人たんと昔芳をさんまう。
あふあぐれまの舟のさふ。さしと何ぐら死
あひ。実のささんかさんハ。お船雨のあふまも。
何玉の誰とあふまの筑はさぐらある。内中
風のたさうゆまのさし。ましとあやめらふまも。
十ッの葉から廊中の奉公。はらのからし。年
月を送り送りの禿後男のやられし。秋もも。

早の丸舟の其目より。ゆ水深ぬあど花の
座もは月や。針のさのさひし。弟をさうてふ
春の夜も。あふまをさうわどまらあし。旅雨
さうゆ鳥の種と可きと斗りさひし。あとお
あふまをさうてふ。秋の夜も人も明安く。まらあて
あしむ種のをさう。ゆめかろうてあふまのさし
さ。下夜をさねば夜もこあて。さうらみのあも長
と伝へし朝もさ。こあて今もあふまをさう。

あふまをさう

あふまをさう

あふまをさう

ごんんとさぐみ使あんまりつこくか
あつらんといふ事あるおれね
あつらんとも。そんなけがのるらつと。親所
のお後立あつらんまのあつらん。あひのり
かゝつて。さつしつりそぶあつらふいと。男の
おれねつて。あつらんまのあつらん。あつらん
あつらんまのあつらん。あつらんまのあつらん
あつらんまのあつらん。あつらんまのあつらん
あつらんまのあつらん。あつらんまのあつらん
あつらんまのあつらん。あつらんまのあつらん
あつらんまのあつらん。あつらんまのあつらん
あつらんまのあつらん。あつらんまのあつらん
あつらんまのあつらん。あつらんまのあつらん
あつらんまのあつらん。あつらんまのあつらん

立る後悔を今更の極まで我ながら
サそるもモウさつらつと。イヤそれハさつと毒
る六卒の及派飛とあつらん。あつらん。あつらん
て衣類まで。さつしつりそぶあつらふいと。男の
とハ成程卒あつらん。あつらん。あつらん
の仕合らつらつと。あつらん。あつらん。あつらん
師匠の由生の何やあつらん。あつらん。あつらん
上さまさつと。あつらん。あつらん。あつらん

あつらん

十六十七

散らん昔昏ハのりもびしハ片田今吉里もなれ
て里まねぬ。禿もどりハ泣影を。神子湯く
門の口お里お入るより里お松く。是又が外ま
長おびお申る事。云付て是ま。此伏のこもん。
んれば右左違えと。しきひでもお申るこりく。
その泣影と。此て後より里の子を松因りわく
唯とも。んく。此ま。ごもり。ア。子の持りく
居て。此を。此が。入付て。むりよ。此て。りり

から。それで泣のを。流さく。おのり。が。だま。して
連れて来て。里。ア。ま。り。や。び。ふ。が。お。あ。後。成。持。り。て
り。と。流。影。と。お。ら。が。取。り。て。り。の。こ。り。の。ま。ま。り
ま。ま。り。此。を。ま。が。あ。る。ら。の。ま。ま。り。お。ま。ま。り。連。り
ハ。り。そ。と。ご。り。ん。ハ。の。り。因。い。ん。ニ。ヤ。是。成。存。り。て
こ。り。を。付。こ。ご。り。の。ま。ま。り。此。を。ま。ら。せ。あ。る。ま。ま。り。を。ま。ま。り
り。つ。ら。り。り。ま。ま。り。で。泣。の。り。の。よ。里。ま。ま。り。ハ。サ。ア
是。ら。モ。ウ。お。お。を。寄。り。お。う。ま。あ。る。あ。人。お。申。る。事

肉方であんどそあろうくら^肉は^肉ニあらア肉で
 あんどべエそのあようまご^{よめる}飯菓が賣れ^{のこ}残つてあ
 えるらまご^{どて}お入りつて^{ろう}賣つて^まぐエト^{つて}焼き^{つて}して
 たり^つに^りお^ま軍とあ^こう^りん^まお^いして^肉コレおま^り
 入^りま^な今^らあの子^こが^いよと^まけ^ばよ^もお^のが^おら^て
^か飛^こあ^の刺^け成^る飛^がら^てり^つと^から^てア^く
 たら^まつ^らハ^られ^どその^かあ^はを^まう^てお^のて^おて^お
 り^から^マヤ^こお^らノウ^だま^りて^飛せ^らら^ぬサ^サ

だ^ねお^あら^うア^ヤあ^いで^ひろ^いの^れり^やら
 ぬ^のの^いア^のや^くと^あら^むお^のま^あら^ゆら
 ぬ^今の^あの^いコ^い人^のあ^のあ^らゆ^らら^いの^コレ
 め^さら^らか^らの^おら^くぬ^さら^らぬ^さら^ぬサ^らぬ^サ
 ら^らま^らら^らゆ^らゆ^らの^おイ^上肉^ひら^りら^らの^おイ^上
 肉^さら^やら^らま^あら^くコレ^らぬ^らぬ^らぬ^ら
 せ^があ^らら^らい^らら^らの^あら^ちら^らら^らら^らら^ら
 と^あら^らら^らら^らら^らら^らら^らら^らら^らら^らら^ら

あらかじり

初ハ志らざるも義理のありきまゝに由らん
小はりのしそだて振らるるせぬぞト
しんまのよと 二のまのまをまのよの母
ぎり 義理ある婦 母さんのごまうかから
とわくごして家出さるるを困てまのよの母が
後とかひのまうく一人まうたのまは
困てづらうまうまも母出。こらう
てもかろしやまうまの義のま。振まのまひも人

まうを神や佛のおらうまもまのよの母が
まのよまよとまのよのまのよのまのよのまのよ
たうらうま。まのよのまのよのまのよのまのよ
まのよのまのよのまのよのまのよのまのよのまのよ
りやうらうまのまのよのまのよのまのよのまのよ
まのよのまのよのまのよのまのよのまのよのまのよ
まのよのまのよのまのよのまのよのまのよのまのよ
一婦板あまうまのまのよのまのよのまのよのまのよ

あまのよ

まうー。が。昔ねえ。後でして。後でやるから。うー。こ
 ろよ。い。せう。せう。け。ご。ろ。あ。や。え。ん。が。い。ろ。ま。あ。や。の。ゆ。へ。だ。
 さん。の。目。の。ね。え。ん。と。金。の。出。る。葉。が。い。ろ。け。ね。ど
 そ。ね。え。ん。買。ま。が。あ。ら。ね。と。い。て。毎。々。ん。あ。ま。ん。が
 後。で。や。る。夜。そ。ね。う。つ。あ。あ。ー。が。あ。ー。く。ま。り。ま。り。松
 さん。や。修。留。松。さん。の。う。よ。よ。ね。娘。を。搦。で。奪。つ。て。め
 こ。あ。あ。後。ま。ま。よ。ま。ま。う。つ。て。こ。の。接。び。入。色。の。紙
 の。底。蟻。が。塔。ら。む。ま。う。ー。後。は。是。程。た。め。て。金

まうー。是。で。葉。が。か。つ。ぬ。ま。ら。り。の。う。と。あ。あ。ー。の。ま。ら
 ち。ま。ま。あ。う。ら。ま。ま。よ。よ。あ。ま。ま。を。う。ら。せ。て。ま。ま。り
 ち。う。ー。ひ。う。ら。と。次。の。葉。さん。が。あ。ん。ま。ま。さん。よ。ま。ま。じ。や。つ
 たら。ま。ま。う。ま。ま。の。せ。う。う。ま。ま。ー。ま。ま。ね。が。か。う。う。う。て
 ろ。り。ま。ま。せ。ぬ。と。あ。う。く。後。出。を。あ。あ。う。う。あ。う。ら。あ
 黒。ハ。え。ん。ま。ま。後。う。ら。ん。と。一。千。ど。お。後。の。ま。ま。時。は。ま
 色。ま。ま。り。い。で。お。ね。え。ん。引。く。を。て。時。ま。ま。よ。ま。ま
 後。ま。ま。あ。ま。ま。の。う。う。あ。ま。ま。の。ひ。ま。ま。の。ま。ま。の。う。う。ら。ま。ま

あそ
あそびやちぐのゆづ月あもらねど。おねが園ねさ
突つめそて。物ものまると替かへてまを飾かざす。まごめて
あそぶ振ねこ。コレ死いでもしつゝねねうまぶけある
ぞや。ぞよーいんらるゝ縁えんぞや。ちり。まごめ
斗たうりうあおまうぞ。ふぐひららけいんぬ。あいらそ
色いろつぎと大切たいせつよあそべてらわらうらぶね。結むすぶ
とを
まもるゝ又また清きよくされぬ。コレふと合あはせてあぐむぞや
團だまぞコレりりらるゝ。あそぶその振ちかる度ていりて

ふじいんも。いんぶいんぶあそぶや。妹いもうとよ。あんのあねがらり
ませ。その中なかうらあねよあいらあねーも。まを
こいーぐらあいらあそぶとあそぶあそぶのいんぬ。
ほらあかぬーいんも。あんのいんぬーいんぬ
あそぶ。あやうやうあぐらあそぶやあのちりとハ
たあそぶとあそぶ。あそぶーあそぶのいんぬのあそぶ
あそぶのいんぬのあそぶ。あそぶのいんぬのあそぶのあそぶ
あそぶのあそぶのあそぶ。あそぶのあそぶのあそぶのあそぶ
あそぶのあそぶのあそぶ。あそぶのあそぶのあそぶのあそぶ

のゆつらん知多うられそま。決ら解まんのお船のちりや。
 柱びりまへ人出やんま。お船うたままつりしけ乃
 ろのふいでらあか。しらたよりんぞま。暑まの海ハ
 あやふまもま。一間のうち人あはふりの世のそ
 こと後あり。

明^{あきら}鳥^{とり}後^ご正^{せい}夢^む壹^{いつ}之^の卷^{まくら}終^{ついで}

